

はあとメール 第23号

発行人 〒606-8405
京都市左京区浄
土寺上南田町26
☎075-761-2109
住田正則

みなさん、こんにちは！はあとメール代表の住田正則（行政書士・社会保険労務士）です。

前回から、私住田が個人的に体験したことや業務上のかかわり、ご相談をお受けした際のお話などから私なりに考察してみたことを、1回1テーマで書いていきます。どうぞよろしくおつきあいのほど、お願いいたします。

『おとなりは、ガイコクジン。』

コンチキチン・・・の祇園囃子に、ゲリラ豪雨、ワールドカップサッカーの熱戦、参議院選挙・・・と、気候変動による影響を感じつつも、今年もやはり、例によって日本は蒸し暑くにぎやかな夏本番を迎えようとしています。

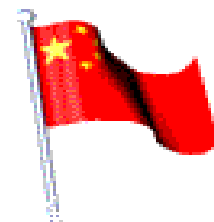
さて、今回採り上げるテーマは、外国人や、いわゆる「国際化」にまつわるあれこれ、です。



～文通で、あなたのくらしにうるおいと安心を～
「市民のみなさんと法律家（専門家）の双方向の交流を、
文通によって実現していきます」

この7月1日から、中国人に対するビザ支給要件が大幅に緩和され、これまで25万円（約327万円）とされていた年収要件が6万円（約79万円）になり、また、北京、上海、広州の3都市に限定して行われていたビザ発給も、重慶、瀋陽、青島、大連を含めた7都市に拡大されました。各地の百貨店、量販店、観光地などでは、この大のお得意様になりうる中国人ご一行様をなんとか呼び込もうと躍起になっているようです。

私に関わっている、ある商業組合の集まりでも、中国人観光客をいかに呼び込み、お金を落としてもらうか、銀聯カードの導入も含めた熱心な議論が交わされました。



（銀聯カード：中国で発行されているデビットカードの一種で、これを使うことにより、中国人は外国への持ち出し制限額5000米ドル以上の買い物をすることができ、その便利さが受けて、現在では18億枚！もの銀聯カードが発行されているそうです）

しかし、私がおその会議に参加させていただいて面白く感じたのは、皆さん一様に総論大賛成、各論うーんちょっと、という具合だったことですね。

いわく、中国人は騒々しくて、マナーがなっていないので、できれば自分自身の店では相手をしたくない、でも、国内での消費量がこの先伸びが見込めない中、有望な顧客層には違いない・・・などといった

感じます。ちょっと虫がよすぎる、ような気がしないでもないですが、しかしこれが、日本人が中国人に対して抱いている印象の代表的なものなのでしょうね。

先日閉幕したサッカーワールドカップにおいて、専門家筋の間ではほぼ唯一といってよい「オランダ優勝」を予想した人がいました。結果的には準優勝だったのですが、大方の下馬評ではオランダはさほど注目を受けていたチームではありませんでしたから、その確かな見識は一定の賞賛に値すると私は思います。



その予想をしたのは、元日本代表監督のフィリップ・トルシエ氏です。

彼は、決勝戦に先立って新たなコメントを発表したのですが、その中で、ヨーロッパや南米の各予選から導いた予想のことや専門的なサッカー戦術論などをひとしきり説いた後、こう言いました。「日本にもベスト4に入る可能性はあった。日本に足りないものは、外部と接触する経験だけだ」国際化、という日本国内だけで通用することばが広まって久しいですが、当然のことながら掛け声だけでは“国際化”は実現できません。サッカー選手や一部ビジネスマンなど、国境をひんぱんに行き来する人たちに限らず、私たち一般の人々も、ことあるごとに外のひと・もの・文化に触れ、ひるがえって自らの拠って立つ社会や文化のことを見つめなおす、そうしたことを日常的に行うことが求められているのだ、とトルシエ氏のコメントを読んだ私は感じました。

誤解を避けるために念のため申し添えますが、私は無節操な外国人労働者の受け入れには断固反対の立場です。それは物事の後先をわきまえない、企業側のエゴに過ぎません。

企業や国の思惑やエゴとはいったん線を引いて、同じ生活者の目線で、異文化の人々といかに自然に向き合うことができるのかがポイントになるかと思います。・・・私自身も、まだまだ経験も見識も足りていませんが・・・。



「はあとメール」の具体的な活動方法・活動内容について、ご説明いたします。

基本的に、毎月1回（15日以降）に、法律ひとくちメモや暮らしのお役立ち情報などを盛り込んだ「はあとメール」を、本活動の趣旨にご賛同いただきました方々（「はあと会員」と呼びます）へ向けて郵送いたします。会員の方々は、スタッフへ向けてご質問・ご相談などのおたよりを送ることができ、それに対してのお返事をスタッフが書く、という流れで、双方の心のふれあい・意思疎通をはかります。

また、会員の方々は、スタッフが開催する無料相談会やセミナーに優先的にご参加いただくことができ、必要に応じて遺言・相続などの業務依頼をスタッフに発注することができます。すでに心安くしているスタッフへの依頼ですから、その安心感は格別なものになるのではないかと思います。

☆「はあと会員」会費 → 無料です！！

現在、はあとメールは、スタッフから集めた会費及び寄付金によって運営されており、「はあとメール」もその予算の範囲内で発行しています。

よって、少なくとも現時点においてはスタッフ以外の会員の方々には会費をご負担いただくことなく、お申し込みいただくだけで、すぐに「はあとメール」をお送りいたします。さあ皆さん、ぜひぜひ「はあと会員」の輪の中にお入りください～

それと同時に、皆さまの善意による寄付を広く受け付けております。いただきました寄付金は、はあとメールの今後の活動をよりよくするための費用として大切につかわせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします！

☆会員へのサービス内容

「はあとメール」発送、質問・お便りへのお返事、相談会・セミナーへの優先ご招待、業務お引き受け（別途有料）・・・等

あなたのご参加を、心よりお待ち申し上げます



（住田 正則）

あなたのくらしに、うるおいと安心を

はあとメール

無

こんにちは、はあとメールです。

◇◇◇当団体の活動の趣旨◇◇◇

私たちは法律家として、定期便「はあとメール」を送付したり、無料相談会を開催することを通して、皆さまが日常生活において困ったときに、気軽に相談できる相手になりたいと思っています。

そして、さらに、心温まるサービス（Heartwarming Service）を提供できるようにして

行政書士、社会保険労務士らが

遺言・相続、離婚、老い支度、年金、

その他困りごと相談に無料で応じます。

日時 平成22年8月15日（日）

午後1時から午後5時まで

会場 「ひと・まち交流館 京都」3階ミーティング室

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83の1

（河原町五条下る東側）TEL：075-354-8711

次回の無料相談会は 9月20日（月・祝）午後1時～5時を予定しております。

☆ 詳しくはお問い合わせください ☆

※ 予約された方が優先となります。

電話・FAX 075-761-2109

〒606-8405 京都市左京区浄土寺上南田町26

はあとメール 住田正則 まで

e-mail:heartmail2008@gmail.com

みなさん、こんにちは。京の菜時記を書かせていただいております
橋本将詞（社会保険労務士）です。

毎回、京都でとれる旬の野菜を紹介しようと始めた「京の菜時記」、
今回で20回目、ここ数年この時期に大きな話題となる大雨と野菜についてお話しします。

京の菜時記 番外編

この原稿を書いている7月15日、TVや新聞では大雨による被害を報道しています。思い返してみれば梅雨の時期にこれほど大雨や洪水、土砂災害が報道されるようになったのは毎年のように思えます。数ヶ月前に、あるTV局の報道記者から「温暖化と農業」について質問を受けたことがありました。温暖化によって露地栽培が多い京都の野菜（京野菜）はどんな影響を受けているか・・・というような内容だったのですが、温暖化（気温が高くなる）による作物の影響は差してありません。それよりも、「雨の降り方」が大きく影響を与えます。雨の降り方が温暖化によるものであれば、その意味で温暖化も農作物に影響を与えているといえます。

この気温が上昇する時期に雨が続くと作物に多大な影響を与えます。まず、湿りを獲すぎると根腐りを起します。そして、ムシも多く発生します。我が上鳥羽でいうと、7月15日時点で畑の九条ねぎの大半が雨によって倒されています。こうなると成長できません。葉物等軟弱野菜は雨粒によって跳ね上げられた土が株の中に入り込み、この状態で暑い日差しとなると病が発生します。枝豆も跳ね土でドロだらけ、茄子や胡瓜の木も雨風で倒されます。



野菜価格が高騰するという報道はよく目にします。でも、それだけの原因があるからで、野菜が高いから生産者が潤うなんてことはほとんどありません。高騰するのは単純に流通量が少なくなるからで、生産者にしてみれば収量が激減してしまうからです。

毎月ご紹介する京野菜はそのほとんどは露地栽培です。施設栽培のものも流通していますが、昔からの伝統野菜は露地栽培でなくてはならないと考えます。昔はハウス等がなかったのですから・・・。路地栽培は天候・気候の影響をそのまま受けることとなります。先に話した報道記者は温暖化＝気温上昇が与える影響を調査したかったようですが、暖かくなると作物の成長は促されます。それよりも雨の降り方が昔とまったく変わっていることに生産者は戸惑われているようです。誰よりも天候や気候に敏感な京都の生産者。雨の降り方が昔と変化していることも敏感に感じ取っておられます。